

岡本拓司 東京大学大学院総合文化研究科 教授
〈専門分野〉 科学史 技術史 高等教育史

「ゲノム合成」に関して、最も関心のある/重要と考えるテーマ・論点・事象など

■新しい科学・技術の登場によって新たな秩序・倫理が作られる過程が観察できる事例として関心を抱いている

ご自身の最近の活動として、最も関心のある/あるいは周囲でホットなテーマなど

■ノーベル賞候補の推移の分析に基づく戦前期日本の科学水準の評価、20世紀前半までの科学に依拠する諸政治思想の展開、実験機器の役割の歴史的分析、明治期の日本における電気技術の受容（東京、横浜、京都を中心に）など

〈活動紹介〉

岡本拓司『近代日本の科学論：明治維新から敗戦まで』（名古屋大学出版会、2021年）、岡本拓司「歴史と物理学」https://doi.org/10.11316/peu.27.2_93